

近郊ウォーキング



▲1～8番の観音堂「メッケ！」

シュラインロード 33体の観音さまを探して

生4-北 廣川 幾雄

六甲山系は南から登ると、どの道もけわしいが、北側はわりと傾斜がゆるやかで登りやすい。今回紹介する六甲越えの道は、江戸時代中期に北摂から灘へ出る道として開かれ、唐櫃道、行者道などと呼ばれていた。この山道を通る人はよく野盗や追い剥ぎに襲われて命を落とす人も少なくなかった。これら犠牲者の供養のため、1825年地元の人達によって西国三十三箇所因で、道端に33体の観音様が祀られた。

願主の名を見ると丹波の杜氏、兵庫の魚屋、五社の酒屋、三木の金物屋などで、いろんな職業の人がこの道を利用していたことがわかる。

明治に入って六甲山上に外国人が住むようになると彼らはこの道を好

んで歩きシュラインロードと呼ぶようになり、現在もその名で呼ばれている。

さて神鉄唐櫃台で下車、南へ5分の所に唐櫃小学校がある。小学校の裏手に布土（ぬのど）の森というのがあって、ここに神功皇后が金の鶏を収めた唐櫃を埋めたという伝説がある。唐櫃の地名はこの伝説に由来している。

神戸北高の脇を通過して高速道路の下をくぐると東山橋に着く。有馬口からの道とここで合流する。清流ぞいの山道をしばらく歩く。右下の川原はキャンプ場である。やがて亥鼻滝が見えて来る。形、大きさとも布引の雄滝にそっくりの滝である。

この先赤松の林が続く、秋には“松茸山につき立入り禁ず”の看板が幾つも立つようになる。

大松というところを左に曲がり、

裏六甲ドライブウェイと交叉する所に石の鳥居がある。昔六甲山全体が霊地として信仰の対象であったころ「神聖なお山」と俗界との境界という意味で建てられたものだろう。

ドライブウェイを横断した所から登山路に入るが、入ってすぐ左側に11番の観音堂がある。以後右に左に12、13、14番と続くが、道より少し奥に入った所にあるので、よほど注意深く探さないとつい見逃してしまう。20番25番と探していくうちに道は平らになり、山頂近くの33番に到着する。意外なほど楽な道である。

さて観音堂は11番から始まっていたが、10番以前はどこにあるのだろうか。我々のグループは度々の現地踏査により、ついにその全てを見出すことができた。

まず石の鳥居からドライブウェイを西へ5分の山側に1番から8番がまとめて祀ってある。仏様のアパートである。道路工事の際、移動を余儀無くされた仏様を一箇所にまとめたのだろう。

次の9、10番は石の鳥居の東側の笹藪の中にかくれているのを、しっかり者のおゆきさんが発見した。

六甲山33箇所の観音様を一日で参拝してみませんか。

編集後記

●先号の発行が定例総会と同じ日だったので、総会の記事は今号になりました。新体制でどれだけのメンバーが残るか心配でしたが、7月11日現在で759名が登録され、最初の想定の8百名に近い数字となり、再結束した会員の決意のようなものを感じています。（サン）

●にわかに騒がしくなってきた永田町の話題も吹き飛ばす勢いの阪神快進撃のニュースを聞きながら心地よく情報ぎやらりーの編集を終えることができた。阪神は間違いなくみんなの力になっている。頑張れ！タイガース（TS）

中古パソコン差し上げます

ただし取りに来て頂ける方
機種：富士通 FMV-5120D5 卓上型

製造年：1997年7月

ソフト：WINDOWS98/EXCEL 97/WORD 97/他20本ほど

ディスプレイ：CRT15

記憶装置：CD、FDD

希望者は078-994-1341 田中 剛さんまでお電話を